



二十歳という節目は、新たな人生の出発点。
羅針盤||人生の指針を見つめ直し、
各々の未来への一歩を踏み出せますようだ。

羅 針 盤

令和8年

「羅針盤」令和8年世田谷区二十歳のつどい

2025年（令和7年）11月発行

（世田谷区広報印刷物 登録番号 No. 2408）

編集/二十歳のつどい実行委員会

発行/世田谷区生活文化政策部 区民健康村・ふるさと・交流推進課

〒156-0043

東京都世田谷区松原6-3-5 梅丘分庁舎3階

TEL: 03-6304-3593 FAX: 03-6304-3714

区長あいさつ



世田谷区長
保坂 展人

二十歳の皆さん、おめでとうございます。

二十歳という、人生の大きな節目を迎えた皆さんには、未来への夢と希望を胸に、期待を膨らませていることと思います。これまでの人生で積み重ねてきた経験、支えてくれた人々との絆、そして自分自身と向き合ってきた時間、それすべてが、これから的人生の大切な土台となっていくことでしょう。

さて、今を生きる私たちの社会は、大きな転換期を迎えていました。令和7年8月に戦後80年目を迎えた、世田谷区が核兵器の廃絶と世界に平和の輪を広げていくことを誓う『平和都市宣言』を宣言してから40年になりました。さらに、せたがや未来の平和館（平和資料館）が開館10周年を迎え、今日まで多くの人々へ戦争の悲惨さや平和の尊さを伝えてきました。しかしながら、現在も戦争の犠牲者は増え続けており、平和の回復には大きな力がいる時代でもあります。私は皆さんにも平和を創る手として歩んでほしいと考えています。

「大人」として新たな人生の一歩を踏み出す皆さんには、社会の一員として責任を担う行動が求められます。それは同時に、自分の意思で未来を選び、何事にも挑戦できる世代を迎えたということでもあります。さまざまな選択をし、時には迷い、時には大きな喜びを得ることでしょう。自分らしさと周囲への感謝の気持ちを大切にしながら、力強く進んでください。困難に直面したときは、一人で抱え込まず、家族や仲間たち等、身近な人や地域のつながりを頼ってください。皆さんの歩みを全力で応援し続けてくれます。

これからも皆さんの感性と行動力が、地域や社会に新しい風を吹き込んでくれることを、心から期待しています。

皆さんの人生が、希望と笑顔に満ちたものとなりますよう、心からエールを送ります。

令和7年11月

令和8年 世田谷区二十歳のつどい

羅針盤

～羅針盤=人生の指針を見つめ直し、各々の未来への一歩を踏み出せますように～

- P.1 区長あいさつ
- P.2 区長インタビュー
- P.3 私たちの20年鑑
- P.5 世田谷区役所 新庁舎の未来
- P.7 世田谷区の地名
- P.10 世田谷区民健康村（川場村）の紹介
- P.11 お役立ち情報
- P.12 行政情報
- P.13 実行委員紹介

世田谷区長 保坂 展人

宮城県仙台市生まれ。教育問題などを中心にジャーナリストとして活躍し、1996年から2009年まで（2003年から2005年を除く）衆議院議員を3期11年務める。2009年10月から2010年3月まで総務省顧問。2011年4月より世田谷区長（現在4期目）。尊敬する人物は中国の作家の魯迅（1881年-1936年）。



区長インタビュー

2025.09.08

実行委員が保坂区長にインタビューをしてきました！



前列左から保坂区長、八木
後列左から森、仲

Q1 我々世代（20歳前後）の頃にどのように過ごされていましたか？また人生の選択や進路を決める際に悩みや迷いがあったエピソードを教えてください。

A1 20歳前後の頃、全国を巡り、北海道の農家に住み込んで田植えをし、建設現場や石油コンビナート等で働き、稼いだお金で本を買い、文章を書きながら自分の進むべき道を模索していました。

当時、作家・魯迅のエッセイに感銘を受けたことで、エッセイに書かれているような深い言葉を紡ぎ出すには、どのようにすると良いのか考え続けたり、ノートに興味を引かれたフレーズを書き留め、それに基づいて自らの思想を深めようしたり…霧がかったトンネルを手探りで進むような気持ちで過ごしていました。この過程は資格取得や学校での学びとは離れたものであったため、自分はこんなことをやっていて良いのだろうかと疑問を持つこともあります。

しかし、このときの経験が、ジャーナリストとしての情報の核心を見極める力や、国会議員として制度の問題点を切り出すなど、独自の視点を築く力になったと感じています。この自己対話の時期は、のちに自分がどのように生きていくかを考えるための貴重な時間だったと思います。



Q3 昨今の著しい気候変動により、子どもたちの遊び場所や遊び方が大きく変化していると思います。区として今後どのようにお考えでしょうか。

A3 非常に難しい問題だと感じています。

地球温暖化と気候変動は20年以上前から指摘され、生活の見直しや資源の大切さが説かれてきましたが、日本の今夏（6月～8月）の平均気温が平年を2.36度も上回り、暑さへの対応が喫緊の課題となっています。

この気温の中で、どうやって子ども達が遊べるかというと、冷房が効く屋内遊び場をたくさんつくるというのは現実的ではないと思っています。学校の体育館の冷房設備は今後補強し、もっと活用してもらえるよう進めていきます。

高校野球が昼間を避けて活動するように、今後は屋の暑い時間を避けて生活するようになっていくのではないかと思います。このまま気温が上昇し続ければ、生存や食料供給が困難になる可能性がありますが、日本は世界的に見ても気候変動への関心が低いと言われています。そのため、気候災害に適応しつつ、根本的な解決策を、若い世代が先頭に立って考える必要があると考えます。区としても、持続可能な環境の実現に向けたアクションを、積極的に起こしながら若い世代にも期待したいと思っています。

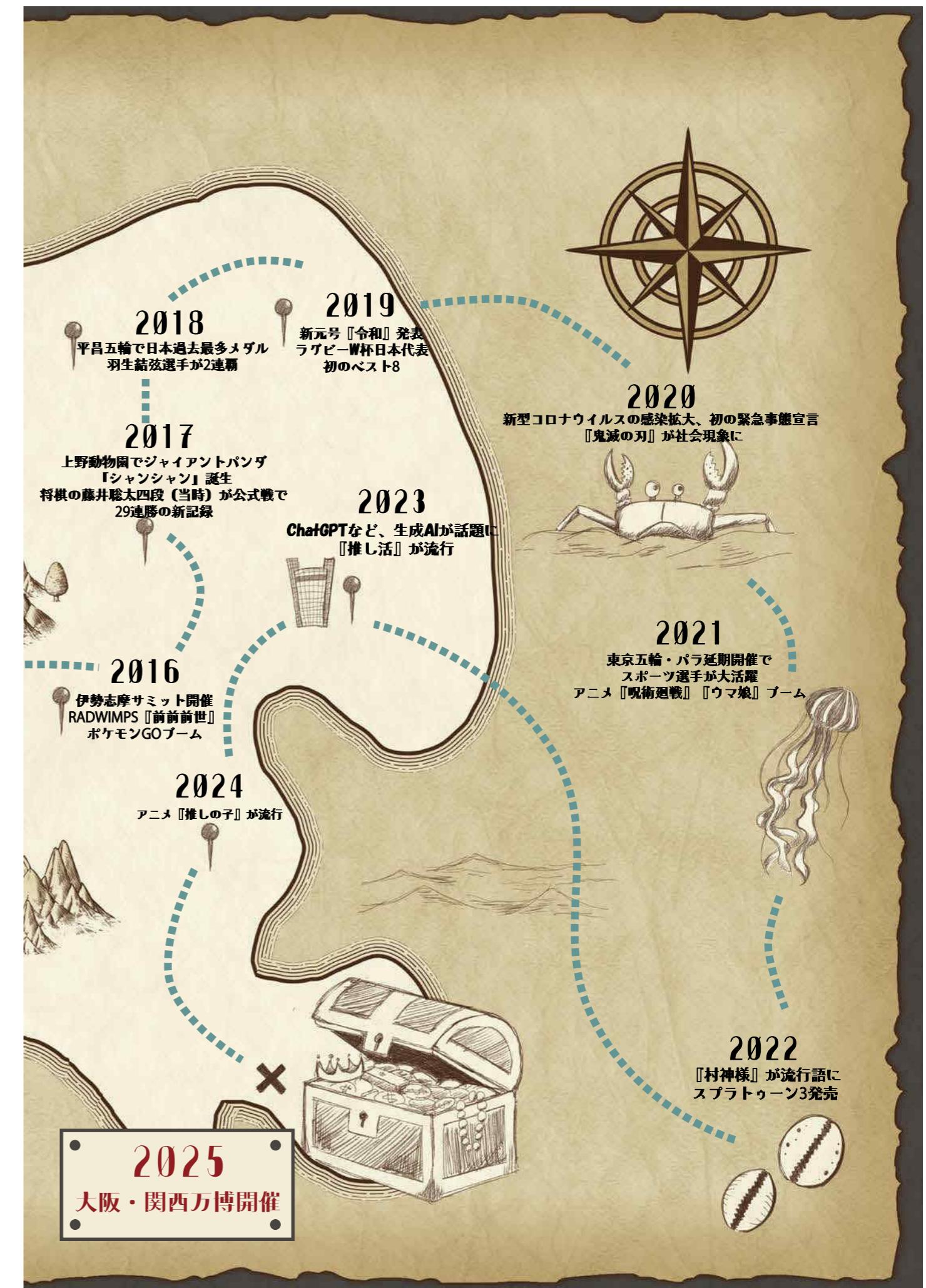
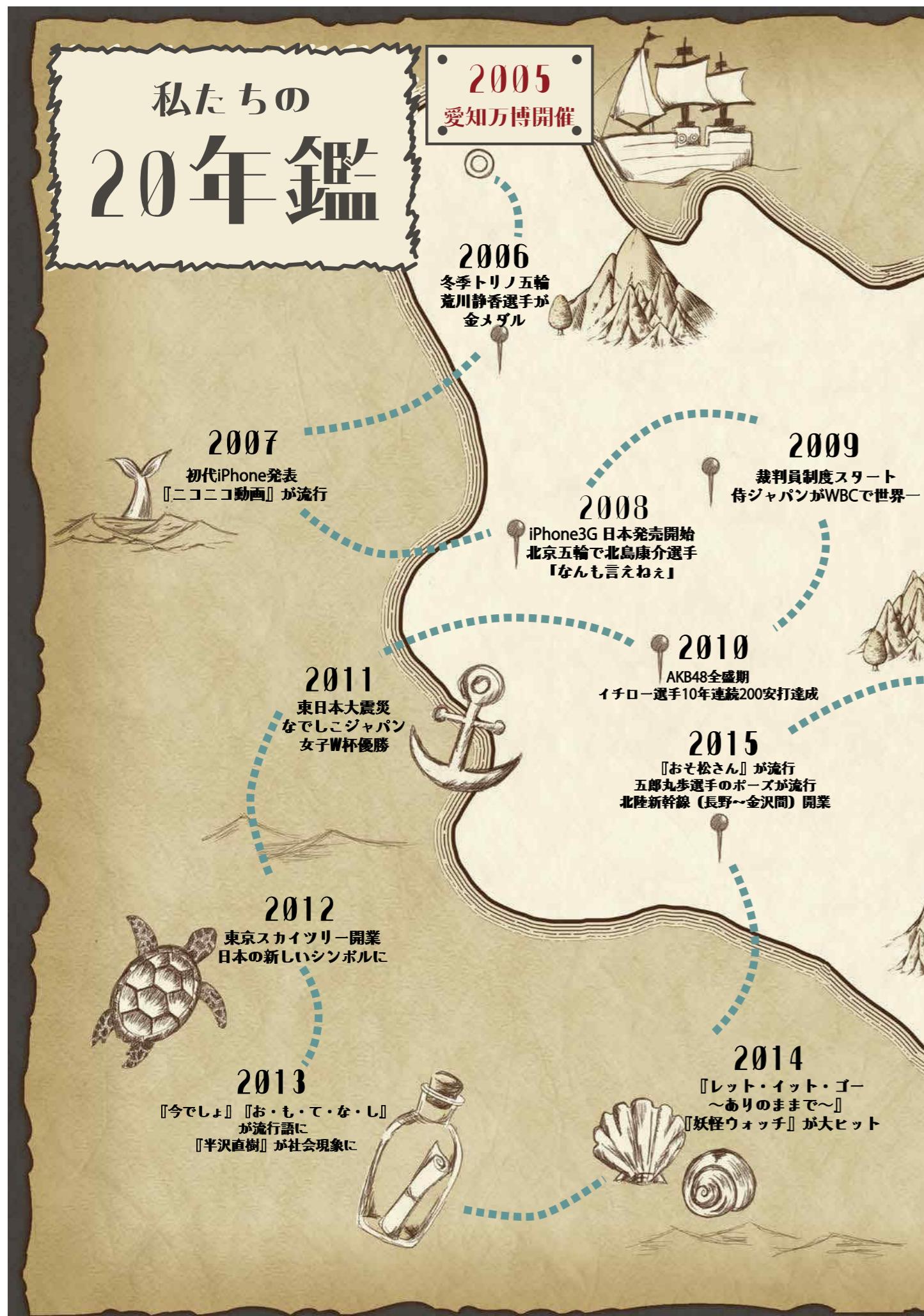


Q4 最後に二十歳のつどい対象者へ向けたメッセージをお願いします。

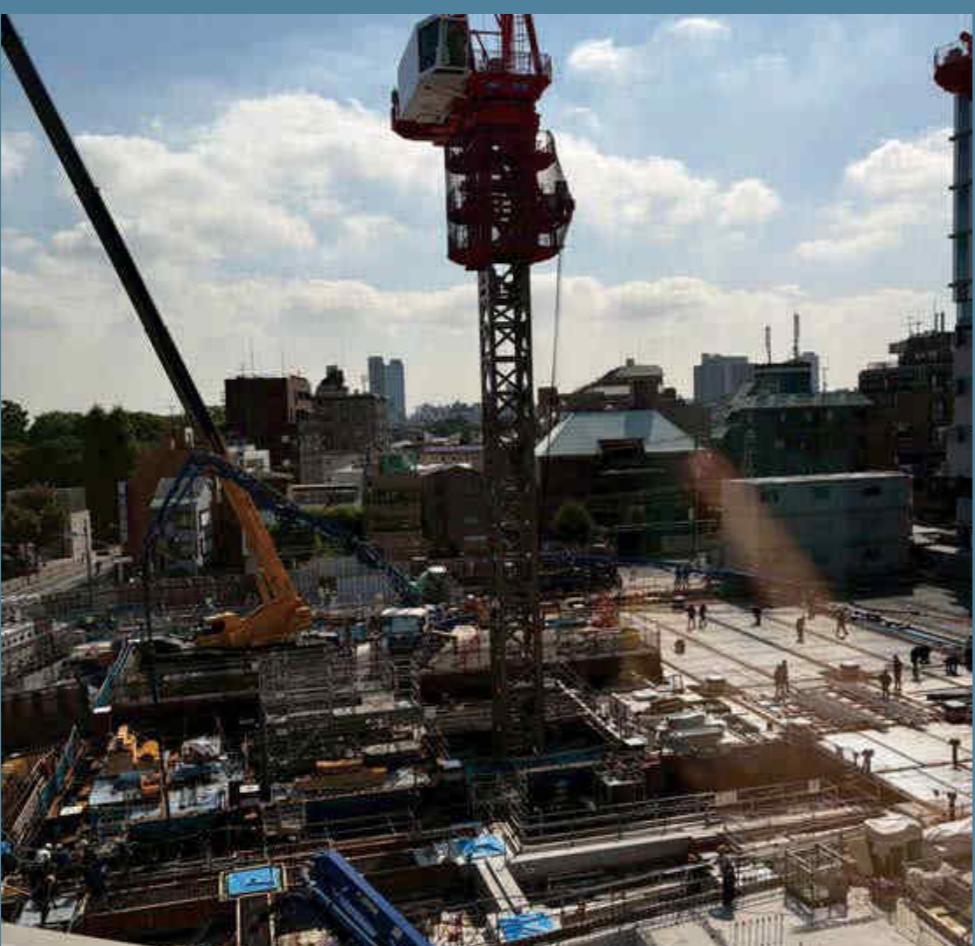
A4 成人年齢は18歳に引き下げましたが、20歳を迎えることで大人への入り口に立ったと思います。責任を持って社会の一端を担う自覚が求められるようになります、学生であれ、いかなる立場であれ、重要な通過点となる年齢だと思います。

とは言っても、社会人としての経験は少ないので、周囲に頼りながら、自分の可能性を信じて進んでください。

また、長い人生の中で、困ることや悲しいこと、ストレスなどがあると思います。そうした時に大切なのは、一緒に喜怒哀楽を分かち合える友人や仲間です。ぜひその関係を大切にして欲しいと思いますし、何でも言い合える関係を維持することも一生の財産になるのではないでしょうか。



世田谷区役所新庁舎の未来



あの白い幕の向こう側で、未来が形作られていくのを、私たちは見ていた。見慣れた街の景色が少しずつ変わっていく中で、一つの大きな期待が膨らんでいく。

「区役所」という、どこか自分たちとは少し距離のある言葉。そのイメージが、まもなく覆されることになる。二十歳という節目を迎えた私たちにとって、この新しい場所は、単なる建物ではない。それは、新しい時代の世田谷と、私たちの未来が交差する、出発点になるのかもしれない。

光と緑、そして「ひろば」という思想。一步足を踏み入れた瞬間、誰もが息をのむ。高い天井から惜しみなく降り注ぐ自然光、随所に使われた木のぬくもり、そして視線の先に広がる緑の風景。ここは、私たちが知っている「役所」ではなかった。設計の根底にあるのは「ひろば」という考え方。目的がなくても誰もが気軽に訪れ、思い思いの時間を過ごせる開かれた空間だ。手続きのための場所だけではない、暮らしに寄り添う場所へ。その思想が、建物の隅々にまで息づいている。

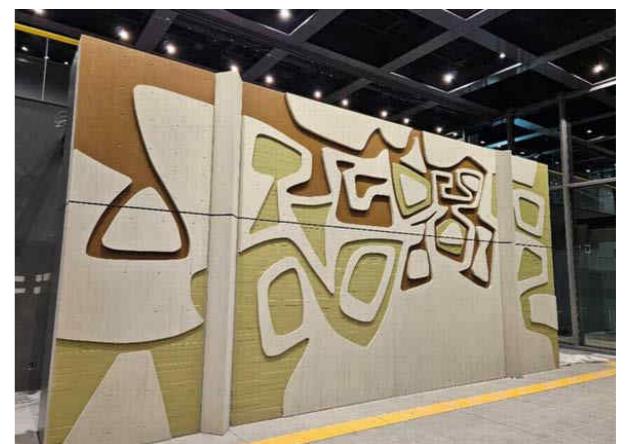


新庁舎は、私たちに「使われる」のを待っているだけの場所ではない。

私たちが、自らのアイデアで「使いこなし」、仲間と共に「育していく」場所なのだと。二十歳という、人生の新しいページをめくる今、この場所から、あなただけの物語を始めよう。

二十歳のつどい実行委員会

INFORMATION

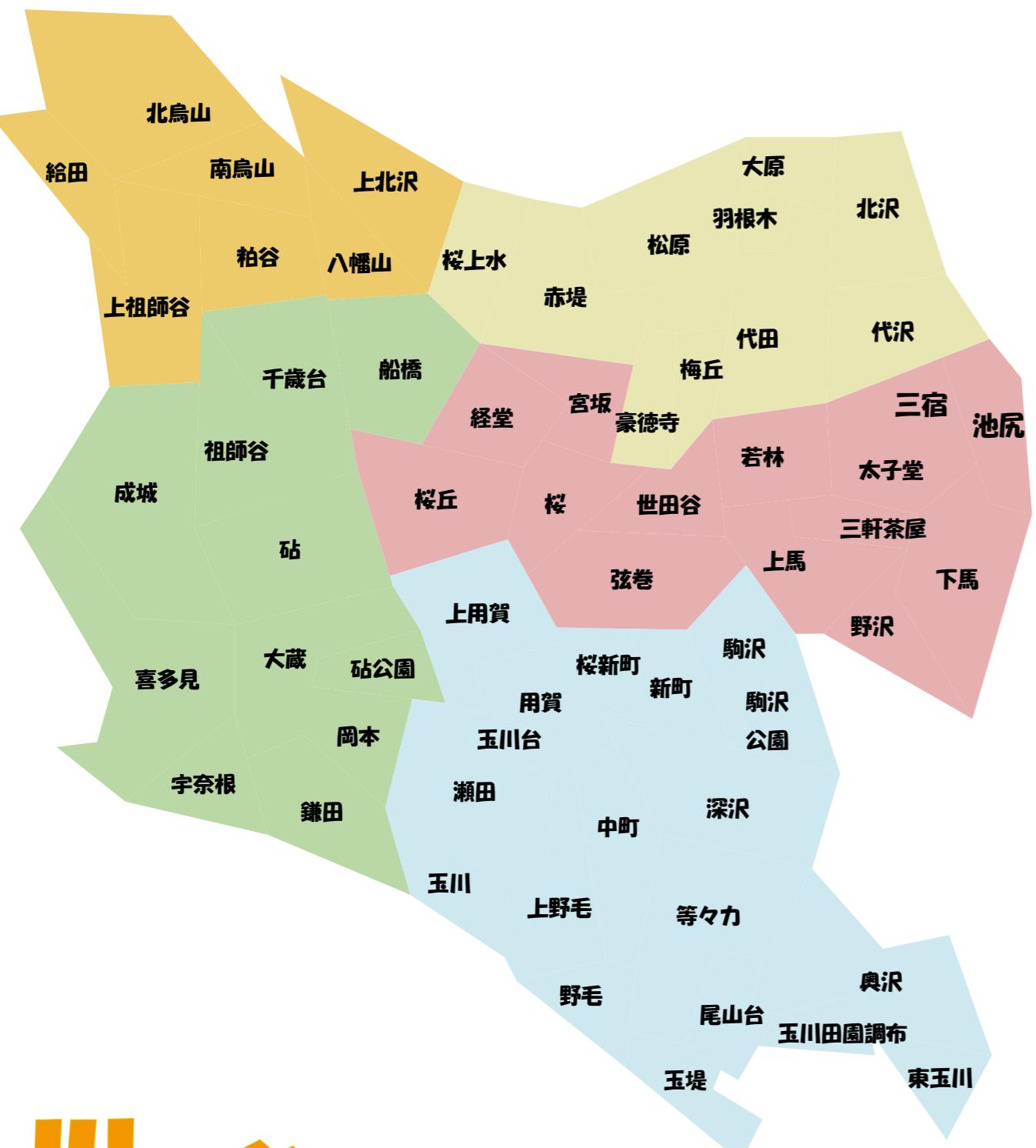


世田谷区役所 新庁舎

写真:せたがやイーグレットホール(世田谷区民会館)
東1期棟エントランスホール ほか

世田谷区 の地名 どんな由来?

(世田谷区 HP 各支所地域振興課作成ページより抜粋)



~世田谷地域~

上馬・下馬

旧駒沢村大字上馬引沢という地名。文治5年(1189年)1月に、源頼朝が奥州征伐に向かう途中、蛇崩川沿いで乗っていた馬が暴れ出して沢の深みにはまって死んでしまう事故に見舞われ、「この地では馬は乗らばに引いて渡れ」という戒めから名がついたといわれている。

世田谷

「世田谷」の「世田」は「瀬田」に通じ、「瀬戸」の「戸」が訛ったものではないかといわれている。

池尻

旧池尻村。昔は目黒川沿いの低地にはかなり大きな池があったのではないかといわれ、池の下の端にある土地という意味からつけられたといわれる。

三軒茶屋

大山道に沿った三差路に、信楽、角屋、田中屋という三軒のお茶屋ができ、旅人の道中の憩いの場として繁昌した。ここが旅人の道中の目標となり、いつしか三軒茶屋と呼ばれるようになつた。

宮坂

世田谷八幡宮(宇佐八幡宮)の東側の坂道を、人々が「宮坂」と呼んだことから名付けられた。住居表示実施に伴い宮坂の区域を拡大し、「/」が除かれた。

~北沢地域~

赤堤

天正12年(1584年)の11月に西福寺の僧法師賀幸が、高野山金剛峯寺の宝塔院法印乗清から、権律師に捕ほされた時のうわ書きに赤堤村西福寺と書かれたのが最初といわれている。

北沢

世田谷には池や沢がたくさんあり、南部の深沢、奥沢、馬引沢に対して北の方にある沢という意味から、北沢の名がついたと伝えられている。

代沢

戦後、従来の北沢1丁目から5丁目は新たに北沢と、下代田町を含む代沢とに分かれ、それぞれが1丁目から5丁目に細分化された。この時付けられた代沢の地名は、今までなく代田と北沢から一字ずつとって付けられたものとされている。

松原

年代は詳らかでないものの、経堂在家の名主松原太郎左衛門の先祖で、世田谷城主吉良氏の家臣松原佐渡守の三兄弟が松原宿を開き、その松原宿の商人たちが赤堤村の土地を開墾し、独立させて松原としたと伝えられる。

野沢

旧野沢村。野沢という村の名は、野村氏の「野」と沢田の字の「沢」を一字ずつとつづけられたとされている。タタ原とも呼ばれ、まぐさ場(馬・牛などの飼料・肥料にする草の採集地のこと)であった。

弦巻

野原を意味する「つる」、牧場を表す「まき」から昔は牧場だったといいう説、武士が戦に破れ、降伏し弓の弦を巻いて、恭順の意を表した地であったとい説、「つるまき」を「水流巻」と書き、「水の流れが渦を巻くほど激しい」ところだという意味をとる説がある。

太子堂

文禄4年(1595年)に、阿闍梨法印(真言宗の僧位)の賢惠和尚が本堂、聖徳太子堂、庫裡を完成させて手厚く祀った。それ以後この地は栄えたので、村の名を太子にちなんで太子堂と名付けた。

経堂

現在、小田急線の経堂駅から少し南側の地にある「経堂山福昌寺」から村の名になったとされる説、野原の中に一つのお堂が建てられていたが、その堂の造り方や形が関東地方には見られない京都風のものだったので、人々がこれを京堂と呼んだことからとされる説など、いくつかの説がある。

大原

昔は代田村の一部で、森久保、西大原、東大原という三つの字から成っていた。大原は、その名のとおり「広い原っぱ」ということから付けられた名といわれている。

桜上水

京王線の駅が桜上水と付けられたこと(昭和12年に京王車庫前から改称)と、玉川上水の堤に植えられた桜並木から見事な花木が育てられ花の里であることによるものといわれている。

羽根木

古老の言い伝えでは、昔から樹木が多く茂っていて、いろいろな鳥が飛んできて止まるので、鳥の羽根と合わせて羽根木になったといわれている。

～玉川地域～

等々力・玉堤

等々力渓谷が今の渓谷の深さになるまでにはいくつかの段階があり、途中に滝ができるのが崩壊したり、そしてまた滝ができるという繰り返したのであろうと推測される。その崩壊の音はまさに轟くような音がしたので、「トドロキ」という地名になったと思われる。

用賀・上用賀・玉川台

用賀の地名の由来については不明。明治22年、それまでの奥沢・尾山・等々力・下野毛・上野毛・野良田・用賀・瀬田の8村が合併して玉川村が成立し、用賀村は大字用賀となった。住居表示の実施に伴う町区域の変更により、上用賀1～6丁目、用賀1～4丁目、玉川台1・2丁目（約4割は玉川瀬田町から）に区画された。

野毛・上野毛

「ノゲ」は、「崖（がけ）」を意味する語と言われている。崖をいう地形地名としては、野毛が多く、野木や乃木もどうであろうと言われている。いつからか上野毛・下野毛に分かれた。

新町

世田ヶ谷村の飛地であった世田ヶ谷村新町が、万治年間（1658年～1660年）分村して世田ヶ谷新町になった。昭和7年の世田谷区成立時に新町1～3丁目に区画された。

～砧地域～

祖師谷

村の谷の近くに地福寺というお寺があつてその境内に祖師堂があつたためという説と、鎌倉時代初期にこの地に住んでいた豪族の柏谷氏が、法華宗を深く崇敬し、領内に一堂を建立し、日蓮上人他界後に祖師像を彫刻し、安置したことによる説がある。

喜多見・成城

江戸氏の一族木田見氏が、すでにこの地を分領して居を構えていたとされ、木田見氏は名を木田見、北見、そして喜多見に変えたとされている。大正14年には牛込（現在の新宿区）の成城学校から分離した成城学園が、砧村大字喜多見字東之原に造られた。昭和11年に大字喜多見は喜多見町に、喜多見成城北と南は合併して成城町に改められた。

岡本

長円寺の山号の岡本山（こうほんざん）からって「おかむと」にいたとある説、鎌倉時代の武将木曾義仲に属していた岡本次郎成勝の出身地であることから付けられたとする説、丘陵起伏の多い地であることから、岡本とつけられたとする説などがある。

～烏山地域～

烏山（北烏山・南烏山）

表土の黒色を形容して「烏」を当て、耕作地もしくは自然の地盤に対して「山」を当てたものではないかという説がある。同様に「黒色のアス（灰）の山」の語が転縮して、クロアス山が「カラス山」になったという説もある。

八幡山

村の北の方は雑木林や杉山（後には竹山となる）の地で、南の方は森や林の広がる台地であった。この台地に建てられた八幡神社に因んで、八幡山村と名付けられたといわれている。

尾山台

「尾山」は「小山」の変化したもので、小山とはこの村の主要部分が多摩川左岸崖線にあるところから呼ばれたと考えられる。小山が尾山となったのは明治7年から明治22年までの間と思われ、理由は、荏原郡に小山（ごやま）村（現品川区小山）があつて漢字を表した場合に紛らわしかったことによると考えられる。

奥沢・玉川田園調布

奥沢の地名の由来については不明。明治22年、それまでの奥沢・尾山・等々力・下野毛・上野毛・野良田・用賀・瀬田の8村が合併して玉川村が成立し、用賀村は大字用賀となった。住居表示の実施に伴う町区域の変更により、上用賀1～6丁目、用賀1～4丁目、玉川台1・2丁目（約4割は玉川瀬田町から）に区画された。

野毛・上野毛

「ノゲ」は、「崖（がけ）」を意味する語と言われている。崖をいう地形地名としては、野毛が多く、野木や乃木もどうであろうと言われている。いつからか上野毛・下野毛に分かれた。

新町

世田ヶ谷村の飛地であった世田ヶ谷村新町が、万治年間（1658年～1660年）分村して世田ヶ谷新町になった。昭和7年の世田谷区成立時に新町1～3丁目に区画された。

千歳台

旧千歳村。「千歳」という村名は、候補村名12のうちから投票により決定したというもので、古くから土地に密着した由来等ではなく、単に縁起のよい名称といふに過ぎないものである、とされている。

宇奈根

平陸の地で昔から農業（陸稲）がさかんだと思われることからとされ、木田見氏は名を木田見、北見、そして喜多見に変えたとされている。大正14年には牛込（現在の新宿区）の成城学校から分離した成城学園が、砧村大字喜多見字東之原に造られた。昭和11年に大字喜多見は喜多見町に、喜多見成城北と南は合併して成城町に改められた。

大蔵

延暦7年（788年）に石川朝臣豊人という人が武蔵守となり、さらに大蔵卿となったことから、このあたりを大蔵村というようになつたとも伝えられている。（諸説あり）

給田

「莊園領主が預所および下司・政所・公文などの莊官や地頭に職務給として給与した田（角川日本史辞典より）」だったものが、そのまま地名になったようである。

上祖師谷

由来は「祖師谷」と同様。祖師谷村が上に分かれたのは、元禄8年（1695年）の様の時とされる。

「北沢の由来参照。かつては上北沢と下北沢とは広い土地でつながっていたものが、その後、赤堤、松原、代田などに分かれたといわれている。

由来は「祖師谷」と同様。祖師谷村が上に分かれたのは、元禄8年（1695年）の様の時とされる。

瀬田・玉川

多摩川沿岸から台地中の谷の多い相当広い区域を含めて古くは「セト」と呼んでいたものが、いつしかままで「セタ」となったようである。明治22年、それまでの奥沢・尾山・等々力・下野毛・上野毛・野良田・用賀・瀬田の8村が合併して玉川村が成立し、瀬田村は大字瀬田となった。

東玉川

昭和7年の世田谷区成立までは、玉川村の大字等々力（明治22年までは等々力村）の飛地で「字諏訪分」といいた区域である。この区域が、世田谷区成立時に玉川奥沢町1～3丁目と玉川田園調布1・2丁目に区分された。

駒沢・駒沢公園

明治22年、町村制施行時に、上馬引沢村、下馬引沢村、野沢村、弦巻村、世田ヶ谷新町村、深沢村が合併し、駒沢村が成立了。馬引沢の馬を駒とし、それに野沢と深沢の沢をつけて駒沢という地名ができたといわれている。

深沢

明治22年、町村制施行時に、上馬引沢村、下馬引沢村、野沢村、弦巻村、世田ヶ谷新町村、深沢村が合併し、駒沢村が成立し、深沢村は駒沢村大字深沢となった。

船橋

昔多摩川の蛇行する川岸に集落があつて、多摩川を住民が渡るために船橋を架けたことから名がついたと言われる説と、烏山川を含む周辺一帯に大きな池があつたのではないかとされ、そこに船橋が架けられていたと見る説がある。

鎌田

現在の鎌田4丁目の橋本家に、古く12世紀にさかのぼって、源義朝の郎党の一人に鎌田政清という人がいて、平治の乱に敗れた後に落武者として身を隠したことからとされることがあります。

砧・砧公園

古く7・8世紀のころ、朝廷に納める布を衣板でたたいて柔らかくし、つやを出すために使った道具から生まれたといわれている。

上北沢

北沢の由来参照。かつては上北沢と下北沢とは広い土地でつながっていたものが、その後、赤堤、松原、代田などに分かれたといわれている。

柏谷

鎌倉時代に柏谷三郎兼時という豪族が住んでいたと伝えられている。



20歳の皆さんは今から9年前、小学5年生のときに行った、川場村のことを覚えていますか？どこまでも広がる空、青々と茂る森、道から手が届いてしまうリンゴの樹。あの頃の景色は今も変わらず皆さんをお待ちしています。大人になった皆さんならではの、新たな川場村の楽しみ方を見つけてみてはいかがでしょうか？

世田谷区と川場村は、昭和56年に「縁組協定」を結んで45年目になり、お互いの住民共々、支えあいつつ発展していくことを目指しています。これから的人生、社会の中で悩むことが増えるかもしれません。そんなときは、少し頭を休め、雄大な自然を誇る川場村に遊びに来てみてください。世田谷区の雰囲気とは違った「ふるさと感」の中に身を投じてみれば、身も心もリフレッシュができるはずです。



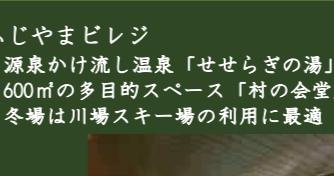
宿泊施設紹介



利用料金

平日 大人（中学生以上） ¥6,500～
休日等 大人（中学生以上） ¥7,500～

※1泊2食付き 大人のみ別途入湯税150円が必要



ふじやまビレジ

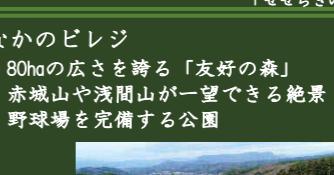
・源泉かけ流し温泉「せせらぎの湯」
・600mの多目的スペース「村の会堂」
・冬場は川場スキー場の利用に最適



利用料金

平日 大人（中学生以上） ¥6,180～
休日等 大人（中学生以上） ¥7,180～

※1泊2食付き



なかのビレジ

・80haの広さを誇る「友好の森」
・赤城山や浅間山が一望できる絶景
・野球場を完備する公園

アクセス

自動車をご利用の場合

練馬IC → 90分 → 沼田IC → 20分 → 健康村

上越新幹線をご利用の場合

東京駅 → 75分 → 上毛高原駅 → 無料送迎バスあり → 30分要予約 → 健康村

JR上越線をご利用の場合

上野駅 → 150分 → 沼田駅 → タクシー30分 → 健康村

利用申込・お問合せ

世田谷区民健康村 予約センター

TEL : 0278-52-3311 (受付 8:00～18:00)

FAX : 0278-52-3313

URL : <https://www.furusatokousha.co.jp>



・左記金額は区内住・在学・在勤の方の利用料金です。小人・幼児・区外の方の料金は別途仰等でご確認ください。
・予約受付は予約対象月のヶ月前にあたる月の1日からです。
・年末年始の予約は抽選となり、料金も異なります。

